



北海道バスケットボール協会  
指導者育成専門委員会  
2013/08/02(金)

タクティクス (HBA指導者育成専門委員会ブログ)

NO. 131

## 第66回 北海道高等学校バスケットボール選手権大会

6月22日(土)～23日(日) 稚内市

指導者育成専門委員会 永野博子

**札幌山の手高校二年振り女王奪回！！札幌東商業高校初の全国切符！**

### ( 女子の部 )

今大会は昨秋のウィンターカップ道予選会が開催された稚内市で行われ、各支部を勝ち抜いてきたチームの精一杯のプレーと応援の熱気に包まれ、3日間の日程を終えた。

ブロック決勝は、昨秋の新人大会のシード校が順当に勝ち上がり決勝リーグに駒を進めた。

結果は、

山の手	102-26	東商	東商	60-59	海星学院
山の手	66-42	旭川藤	東商	63-50	旭川藤
山の手	99-69	海星学院	海星学院	75-72	旭川藤
優勝	札幌山の手高校		3勝0敗		
準優勝	札幌東商高校		2勝1敗		
3位	海星学院高校		1勝2敗		
3位	旭川藤女子高校		1勝2敗		

以上の結果、札幌山の手高校と札幌東商業高校は7月29日から大分県で行われる全国大会の切符を手にした。

以下、4チームの大会の感想をひと言

優勝した札幌山の手高校は、3年生が少なく、2年生中心のチームで昨年2連覇を阻止された悔しさを糧に奮起し、運動量、攻撃力で圧倒し他校を寄せ付けなかった。#9斉藤、#10佐藤のフォワード陣が確実に得点を重ね、チームのモットーでもある「ディフェンス・リバウンド・ルーズボール」選手全員の意識の高さが今回の結果に繋がったと言えるだろう。

基準はあくまでも全国上位、上島HCは一つ一つのプレーの確実性を目指し、全国に向け早くも始動を始めた。

準優勝で初の全国切符を手にした札幌東商業高校は、初戦の山の手戦の大敗から一転、海星学院、旭川藤と接戦につぐ接戦で、集中力のあるゲーム、そして、各チームの気持ちのぶつかり合った終始息の詰まる展開の好ゲームであった。

特に、東商は他のチームと比較しても、身長差で劣り、きわだった選手もいない中、斉藤

主将いわく「ベンチ以外の選手も一体となり、最後まで諦めない試合ができた」とチームワーク振りを強調していた。

特に、女子では公立高校の全国出場は帯広南商業以来14年振りの出場で、まさしくあっぱれとしか言いようのないゲーム運びだった。コーチの地道な努力と、バスケットの基本でもある1対1、シュート力の強化が就任以来5年目の快挙に繋がったと思う。

3位の海星学院は、ブロック決勝の北星にはたいぶてこずったものの、昨年からのメンバーが主体で、一人一人の能力は目を見張るものがあり、バランスの良いチームであった。#4樋口のシュート力、#9石川のドライブ、途中出場の#8広瀬のスキのないバスケットなど将来性のある選手を今後いかに伸ばしていくか、コーチの手腕に期待したい。

3位の旭川藤は、これまたバランスの良いチームで、ブロック決勝の対創成戦では20点以上の差をつけ、決勝リーグへ駒を進めた。3年生主体のチームであるが#15玉田の身体能力の高さを生かした、チームバスケット作りに大いに期待したい。

( ベスト5 )

三塚	ゆり	( 山の手 )	3年
斉藤	麻未	( 山の手 )	2年
田中	葵	( 東商 )	2年
広瀬	莉香	( 海星 )	3年
玉田	季奈	( 旭川藤 )	3年

受賞者の皆さんおめでとう。以上のように、下級生も選ばれております。これをバネにして、国体予選、更にウィンターカップ予選に向けて技術を磨いて、チームを引っ張ってほしいと願う。

最後に、稚内地区バスケットボール協会、当番校の稚内高校の皆さんには大変お世話になりました。有り難うございました。

以 上